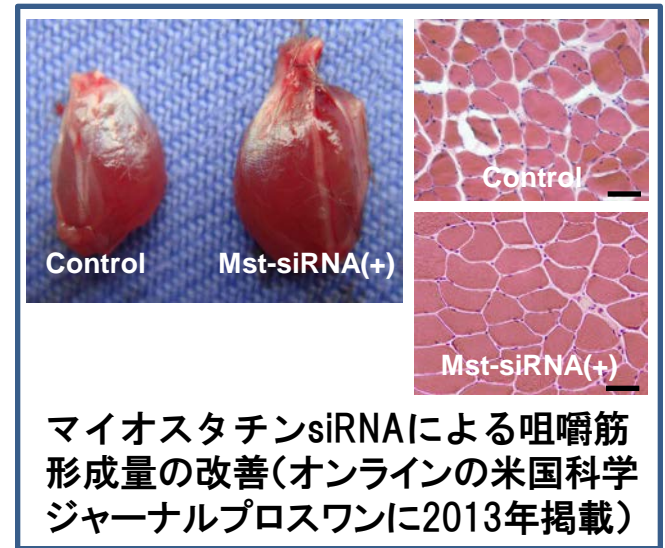


研究テーマ 咀嚼の重要性—全身の健康増進に与える影響
 所属氏名等 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔顎顔面矯正学分野
 教授 田中栄二

研究シーズ概要

咀嚼がもたらす効果としては、①顎を発達させ歯を丈夫にする、②噛み砕くことで消化を助ける、③唾液の分泌を促進する、④大脳を刺激し認知症を予防する、⑤集中力を高め、同時にストレスを緩和する、⑥肥満を防止する、⑦頭の働きをよくする、⑧顔の筋肉と骨が鍛えられ、しわの予防になるなど、が報告されている。すなわち、咀嚼は全身の健康維持、増進にきわめて重要な役割を果たしていることが示唆されている。一方で、あまりよく噛まない習慣は咀嚼機能を司る咀嚼筋の機能低下、筋力の低下を生じることが報告されている。全身の骨格筋の機能低下が運動機能に影響を与えるのと同様に、咀嚼筋の機能低下は食物摂取機能に影響を及ぼし、ひいては全身健康にも悪影響をもたらすと考えられる。本研究では、よく噛まない習慣が咀嚼機能に及ぼす影響を明らかにするとともに、難治性筋萎縮疾患の治療法(RNAi創薬)の開発を行う。



(想定される)応用範囲／今後の展望

- ・筋ジストロフィーおよびパーキンソン病にみられる骨格筋萎縮に対するRNAi創薬
- ・高齢者の寝たきり防止を目的とした安全な筋萎縮抑制薬の開発—ユビキチンリガーゼを治療ターゲットとした廃用性筋萎縮予防法—